

## 退任のあいさつ

名古屋大学 山澤弘実

前任の高橋千太郎先生から部会長の任を受け継ぎ既に 2 年が経過して、この度退任することになりました。東京電力福島第一原子力発電所事故に関する学会内での当部会の役割の重要性、特に放射線被ばく影響の社会の関心の高さを考慮して、高橋先生の専門性は余人をもって代えがたいことから 2 期 4 年の重任をお引き受けいただいた後ということで、私としては、その方向性を維持することを片輪としつつも、事故前に当部会が担っていた分野の研究も以前同様に活性化することも片輪として、部会の発展を目指したい旨を就任時の部会全体集会で述べたところでした。

幸い、副部会長としての山西弘城先生と飯本武志先生の全面的なご支援により、わたくしがいなくとも両輪とそれなりに回転したのではないかと考えております。また、企画、会計、総務等のいろいろな役割を担っていただいた運営小委員会の皆様にも大変お世話になりました。その中で私が部会運営としての特段の貢献がなかったことは率直に反省すべき点と考えておりますが、特段大きな問題も起こさなかったことをもって、部会の皆様には大目に見ていただければ幸いです。

事故後の対応も今後長く続き、本部会への学会及び社会からの期待や付託も減ることはないだろうと思います。この点では、行政や業界と力を合わせて着実に仕事をする必要があると思います。一方、学会としては、将来の学術分野を拓き、ひいては社会を支える研究が生まれ育つことは何にも増して重要と私は考えております。そのためには、部会において、明るい展望が開けるような研究が展開され、若い人が興味と希望をもって関わることのできる舞台が提供されることを切に願っております。事故以前は、「興味深い」、「重要な」研究を『面白い』の一言で表現しておりましたが、ここ数年はこの表現を自己規制するようになってしまいました。またこの言葉が気軽に使えるようになることを期待しています。